

「入来小学校の入来神舞伝承活動への取組」

1 学校名

薩摩川内市立入来小学校

2 学年・人数

4年生（2人）6年生（1人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年11月・12月大宮神社（集会場）

(2) 発表の日時・場所

令和3年11月23日（火）大宮神社にて入来神舞の奉納

令和4年1月1日（土）大宮神社にて入来神舞の奉納

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

大宮神社の入来神舞奉納（いりきかんまいほうのう）

(2) 由来

大宮神社は、約750年前、入来の地頭だった渋谷氏の家老種田氏が、近江国坂本今の大津市)の日吉大社から迎えられたのを機に建てられた。入来にある5つの神社の筆頭として、領民が敬っていた。初めは、久木塚の川沿いにあったが、約500年前に現在の場所に移った。現在の建物は、約100年前に建てられ、大国主の命が祭られている。

大宮神社は、毎年11月23日と大みそかに、入来独特の神楽と神舞を奉納している。

入来神舞は、古くから入来に伝わる隼人神楽や渋谷氏が伝えた上世雅楽、出雲流雅楽が混ざった演劇的神舞といわれている。

(3) 構成等

入来神舞は、36の演目があり、大きく、災いをなくす巫女舞・稲作に関する舞・天の岩戸の神楽の3つに分けられる。今は、猿女舞・三隅舞・四方鬼神舞・十二人剣・杵舞・田之神舞が奉納されている。

<猿女舞と三隅舞>

猿女舞は、鈴と扇を持った2人の巫女が舞う。次の三隅舞は、扇を持った4人の巫女が舞う。

<四方鬼神舞>

四方鬼神舞は、初めに青の衣装を着て、弓と矢を持った鬼神「青竜」が登場する。春を表し、木の象徴といわれている。次に赤の衣装を着て、なぎなたを持った鬼神「朱雀」が登場する。夏を表し、火の象徴といわれている。そして白の衣装を着て、なぎなたを持った鬼神「白虎」が登場する。秋を表し、金の象徴といわれている。また、黒の衣装を着て、くまでと斧を持った鬼神「玄武」が登場する。冬を表し、水の象徴といわれている。最後に、中央鬼神が、扇とぶちを持って登場する。

<十二人剣舞>

十二人剣舞は、奈良時代に、隼人族が皇宮12門の守りにあたったことから、中央鬼神が、その12人に天照大神の由来を説く神楽舞である。この中で国歌「君が代」が歌われ

ている。このことから、大宮神社は、「君が代」発祥の地といわれている。

<杵舞>

杵舞は、稲作の豊穰を祈願する舞です。杵を持った2人が、田起こしや杵つきなど稲作の様子を舞う。途中からユーモラスなお面を被った田之神が登場し、でんぐり返しなどを舞う。

<田之神舞>

田之神舞は、田之神が、みんなが知らない間に、昼も夜も毎日、田んぼの見回りをしている様子を舞う。おもどしやすりこぎを使って、ユーモアたっぷりに舞う。

5 保存会や地域との連携の具体

大宮神社の入来神舞は、地域の小・中学生、高校生、一般の方々の有志で伝承されてきている。親から子へ、孫へと受け継がれてきたが、最近では伝承する若い人たちが減少している。毎年2回行われる大宮神社の入来神舞奉納は、地域の方々の自慢でもあり、地区内外から多くの見学者が訪れる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

入来小学校では、ジュニア歴史ガイドも参加して、見学者の皆さんに入来神舞の紹介などを行っている。

7 取組の様子



【入来神舞（十二人剣舞）】



【入来神舞についての学習】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【小学生児童】

練習や演舞は寒くて大変だけど、地域の方々に喜んでもらえたり多くの方に見てもらえたりして嬉しい。練習して、剣舞をカッコよく踊れた。

【保護者から】

子どもたちが、地域の伝統行事に携わることは大変貴重な体験になり、自分たちの生まれた地域を愛するきっかけとなる。

【保存会から】

入来神舞の伝承者が少なくなり大変困っている。4年生を対象としての入来神舞についての学習に伺い、入来神舞の由来等について話し、興味をもってもらえる機会をもつことができよかった。今後も小学生や中学生、高校生に呼びかけて、伝承者の確保に努めていきたい。